

令和4年度 大阪府立桜塚高等学校（定時制の課程）  
「第3回学校運営協議会」報告

【日時】令和5年2月15日（水）

【出席者】学校運営協議会委員：古川 知子、島村 宏二、北之坊 晋次、  
永井 敏輝、飯野 哲生、南 美紀

准校長：田中 徹

事務局：武内 由佳（教頭）、二子石 知恵（主査）、  
根岩 直希（首席）

【報告・協議】

1 開式

准校長：お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は、今年度の学校経営計画の評価と来年度の学校経営計画についてご審議いただければと思います。また、3月1日は卒業式がございますので、ご参列いただけるようであれば、お伝え下さい。それでは、本日の学校運営協議会、よろしく願いいたします。

2 報告

（1）保護者からの意見書の提出状況

教頭：提出された意見書はない。

（2）令和4年度学校教育自己診断結果について

教頭：生徒の結果であるが、本校への入学目的としては「友達をつくるため」という理由が増加傾向にある。学校説明会参加者などに意見を聞いても、通信制高校と定時制高校を比較したとき、人間家関係を重視したいので、定時制高校を選択すると聞いている。保護者の結果だが、オンラインで実施することで、従来の紙媒体での実施よりも詳細な結果を得ることができていると感じている。気になるのは、ある先生の授業については受けたくないという意見が出ている生徒がいるという意見であり、改善すべき点であると感じている。教員の結果であるが、「基礎学力をつける」と意識している教員が増加傾向にある。学習指導要領の改定を受けて、校内研修を活性化させた結果であると考えている。

議長：学校教育自己診断の実施時期はいつか。

教頭：12月の末である。

委員A：オンラインでの回答とはgoogleフォームを利用しているのか。

教頭：その通りである。保護者については、オンラインの回答でも、紙媒体での回答でも、どちらでも可としている。

委員A：保護者はスマホとフォンでのオンライン回答が良いと思う。ただ、オンラインでの実施についていけない層が一定数存在するであろう。

教頭：そのため、アンケート用紙を全体に配付し、紙媒体での回答も可としている。今後、実施方法を検討して、さらに回答率をあげる工夫は必要であると考えている。

委員A：回答したいと思っていても、そこにアクセスできなければ、意味がないので、工夫は必要である。

委員B：保護者の立場としては、今回の回答方法に不便を感じなかった。オンラインでの回答はしやすかったように思う。

（3）後期授業アンケート結果について

教頭：昨年度と比べると若干低下傾向にある。このことについては、生徒数が少ないことによるブレであると分析している。ただ、学校教育自己診断の意見でもあったように、教員間での差もあるため、個人個人の授業改善を図ることが今後の課題であると考えている。

### 3 協議

#### (1) 令和4年度学校経営計画に係る学校評価(案)について

准校長：授業の目的の明示については、全ての授業においてなされていた。授業のフィードバックに関しては、授業担当者によって手法は異なっていたが、概ね実施できていた。全ての教科における一人一台端末を活用した教材の開発については達成できていなかった。RST(リーディングスキルテスト)やコグトレは今年度初めて実施した。1年生の総合的な探究の時間で実施したが、長期的な効果をみるために、まだ評価をしていない。短縮授業については、行事等を精選することで減らすことができた。学校行事であるが、文化祭を3年ぶりに実施することができ、生徒の評価も高かった。SSWとの連携に関しては、生徒情報の共有が完全ではなかった。

議長：意見や質問はあるか。

議長：SSWとの連携が十分ではなかったというのはどういうことか。桜塚は支援などに配慮されている印象である。

准校長：SSCに関して養護教諭が窓口となり、十分な連携がなされた。SSWに関しては、現在の校内体制では、SSWが十分に力を発揮できなかった部分がある。

委員C：短縮授業日数の減少についてであるが、行事などのために必要ではないのか。

准校長：本校の短縮授業は生徒面談や保護者懇談のために確保していたものが多かった。生徒のことも考えながら、現在の本校実態に合わせて行事予定を組む際に工夫してもらった。

議長：授業時間の確保は大阪府の高等学校全体で取り組むべき課題であるので、よいと思う。

准校長：授業の質を上げるためにも、今後も課題の改善に取り組んでいきたい。

議長：文化祭を見学しても、生徒が生き生きした様子がみれたので、よかったと思っている。

委員C：中学校では、地域との連携を強化しようとしても、授業時数確保との両立が難しく、これまで参加できていた地域行事に参加できなくなっている状況がある。定時制ではどうか。文化祭などの行事で学ぶことも多いと考えているので、そのためにも短縮授業が必要ではないかと感じる部分もある。

准校長：文化祭の準備などについても、提示した状況の中で実施できるように工夫する力も身につけてほしいと考えている。本来は、生徒から学校行事を企画できるような力を身につけてほしいと考えている。今年ではできなかったが、来年度は、生徒会の力もつけていきたいと考えている。

委員D：中期的目標「未来の創造に向けた希望と意欲を育む支援体制の確立」においてであるが、この項目は生徒に関するものであると理解しているが、その中で教職員の資質向上に目を向けているのは非常に素晴らしい。若手の先生方を支援する体制も重要である。

委員E：コロナ禍における3年で、生徒達は交流関係が作りにくかったと思う。そのような状況であったのに、今の生徒達はよく育っていると思う。特に、今年の文化祭の様子を見てそのように感じた。

議長：コロナ禍だからこそ見えてきたものもあると思う。生徒に必要なものは何であるのか、教員も一度立ち止まって考えてみるのがよいかもしれない。

議長：令和4年度学校経営計画の評価について承認いただけるか。

各委員：承認する。

#### (2) 令和5年度学校経営計画(案)について

准校長：次に令和5年度学校経営計画であるが、教員の資質向上として、先進校への視察だけでなく、他の定時制高校についても視察することを考えている。すでに他校の准校長と連絡をとり、計画を進めている。授業改善については、全ての授業について実施するために、非常勤講師の先生方にも周知し、協力してもらうことを考えている。RSTは今年度初めて実施したが、手応えを感じているので、来年度でも継続して実施する。コグトレ

についてはオンラインで実施したが、身体面の機能を上げるトレーニングについても実施したいと考えている。会議資料の電子データ化については、大阪府教育庁から方針がでている。まずは、校内連絡事項のペーパーレス化をめざす。そのために定時制専用の電子掲示板を作成し、すでに試験的に運用を始めている。

議長：なにか意見や質問はあるか？

議長：定時制高校間での交流は非常によいと思う。得られるものも多いだろう。

委員E：現在、他府県など遠方から通学している生徒はいるのか？

准校長：現在在籍している生徒の多くは豊中市在住である。

委員C：非常勤の先生方にも授業改善の取り組みに参加してもらおうというのは、保護者アンケートの一部の先生の授業を受けたくないという声があるということとリンクしているように感じる。一部の非常勤講師の先生が生徒に寄り添えていないということもあり得るのかなと感じる。そういう意味で、改善が期待されるかもしれない。非常勤講師は時間給だが、生徒達の特性を理解してもらうためにも、授業時間外に勉強をみてもらうことは可能なのか。

准校長：授業時間外の指導を依頼することは部分的には可能である。ただ、保護者アンケートの原因が非常勤講師の先生方にあるわけではない。

議長：令和5年度学校経営計画（案）について承認いただけるか。

各委員：承認する。